2026 年度 外部評価委員会の開催報告

2026 年度 外部評価委員会を開催しました。

・日時・会場： 2026（令和 8）年 9 月 3 日（木）15:00～16:00
北海道文教大学本館 1 階　会議室「羊蹄」

・開催形態：対面

・委員（敬称略）

規程（号）	所属	氏名	
(1) 本学を卒業、または修了した者	北海道文教大学同窓会「つるの会」前会長	後藤田　倫子	欠席
(2) 地域経済界の関係者	恵庭商工会議所　専務理事	中川　淳一	出席
(3) 地域の高等学校関係者	北海道北見北斗高等学校　校長	渡邉　周一	欠席
(4) 地域の教育委員会関係者	恵庭市教育委員会　教育長	岩渕　隆	出席
(5) その他大学に関し広くかつ高い見識を有する者	北海道教育大学　名誉教授	三上　勝夫	出席

・評価対象
令和 7（2025）年度　北海道文教大学自己点検・評価報告書
第 4 章「教育・学習」
第 5 章「学生の受け入れ」

・学内出席者：玉井学長、高岡副学長（第 5 章説明者)、松岡教育開発センター室長（第 4 章説明者)、若原事務局長

・評価方法
資料の確認及び担当者からの説明を受けた上で、外部評価委員による評価を実施した。

・内容等

外部評価委員から、以下の事項について、主な意見、改善を求める提言事項があり今回の外部評価において示された意見、提言事項を受け止め、自己点検・評価報告書をはじめ、今後の改善活動に活かしていくこととした。

・委員の意見

学生アンケートにおける「授業によって能力を伸ばせたか」に対する肯定回答が 87.7%であることや、また理学療法学科の国家試験合格率が一時下がった際に直ちに対策を講じて翌年92,0%に急回復させた実績は評価に値する。
汎用的能力の測定は困難だが、看護学科やこども発達学科などの独自の取組みを発掘・集約すれば指標になり得ると考える。 ・看護学科の「地域フィールド実習」：学生が地域（商店街等）に出て課題を発見し自ら考えさせる実践的な教育。 ・こども発達学科の「ポートフォリオ」：1 年生からの気づきや実習、介護体験等の成長を 1 冊のノートに完成させ、自らの力を自覚させる試み。 これらの取組みを可視化・集約することで、汎用的能力の達成度を測ることが十分に可能ではないか。
地元（恵庭市）に看護師、管理栄養士、理学・作業療法士、小中幼の教員など、多くの資格が取得できる大学があることは非常に価値のあることである。
恵庭市は「北海道ボールパーク」プロジェクト（商業、住宅等を含む壮大な街づくり、46 ヘクタール）など、無限の可能性を秘めた魅力的な街になろうとしている。恵庭市は全国的にも珍しく人口増加が続いている。栗山英樹氏が目指す健康テーマの研究施設との連携などを通じ、健康・栄養・スポーツ・リハビリなど「アスリートや地域をサポートする人材」を全国から集めるような、どこにもない魅力的な大学づくりを目指すべきである。
報告書において編入学（学士入学）をぜひ強力に推進すべきである。ファイターズ、読書、花の街に加え、教育・スポーツの街というアピールが有効である。社会人入学や、教員免許が取得できる大学院の設置など、学び直しの場としての大学院アピールも強力な募集材料になる。